

古座川町

# 第6次長期総合計画

概要版

清流“古座川”と  
共生するまち

— 清流と笑顔を未来につなぐまちづくり —

令和7年4月  
古座川町

## 計画の趣旨

古座川町では、平成 27（2015）年度から令和 6（2024）年度までの 10 年間に計画期間とする「古座川町第 5 次長期総合計画」において、『豊かな心と生きがいを育む町 古座川』をまちの将来像とし、その実現に向けて町政運営を進めてきました。

この間にも、人口減少や少子高齢化が進み、それらに伴う労働力人口の不足のほか、グローバル化やデジタル化の進展、地震や台風などの自然災害、地球温暖化等の環境問題への対応など、本町を取り巻く社会・経済情勢は大きく変化しています。

また、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、本町においても様々な地域活動が中止・休止を余儀なくされ、地域コミュニティの活力の低下が懸念される一方で、「紀伊半島一周高速道路」の整備が進んでおり、古座川インターチェンジ（仮称）を基点とする新しいまちづくりが期待されています。

こうした背景から本町では、多様化・複雑化する地域課題の克服に向け、今後 10 年間のまちづくりの方向性を示す最上位の指針として、「古座川町第 6 次長期総合計画」を策定し、総合的かつ計画的な行政運営を進めていきます。

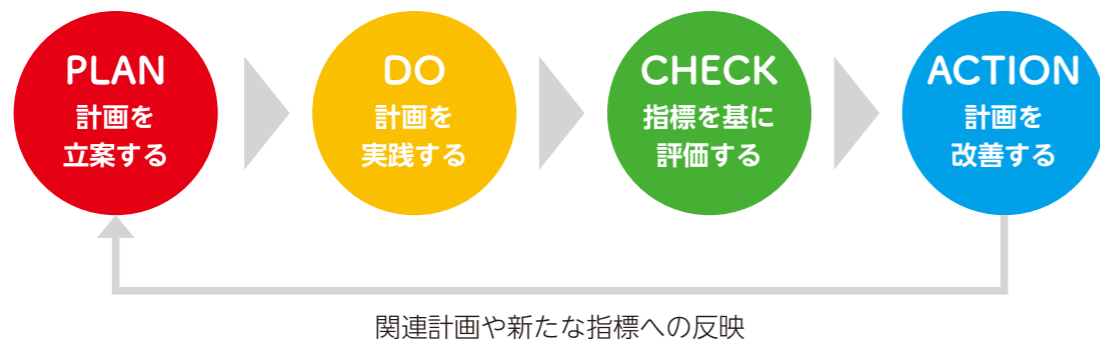
### 長期総合計画の計画期間

西暦（年度）	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034
令和（年度）	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
基本構想	基本構想									
基本計画	前期基本計画					後期基本計画				

## 進行管理

本計画は、役場組織の目標管理と連動させながら、PDCA（「計画（Plan）」→「実行（Do）」→「評価（Check）」→「見直し（Action）」）サイクルによる評価・改善を実施するとともに、外部組織である総合計画審議会においても、その進捗状況を管理します。

### PDCA サイクルによる推進



## まちづくりの将来像

“古座川”は、その源を大塔山に発し、平井川、添野川、佐本川、三尾川や小川と、たくさんの支流を擁して大きな流れとなり、太平洋へと注いでいます。

古くから“古座川”は私たちの暮らしの中心にあり、森と海を、流域の集落と人々をつなぐ大切な役割を果たしてきました。この“古座川”に代表される豊かな自然と、自然と共生する中で育まれた地域の文化を、現代に生きる私たちが力を合わせ、未来につないでいかなければいけません。

そのためには、私たち一人ひとりがふるさとを見つめなおし、豊かな自然や文化、人々のつながりといった地域の貴重な資源について、改めて考える機会が必要です。そして、住民、団体、事業者と行政が力を合わせ、それらの資源を地域の魅力へと磨き上げ、その魅力に共感する人々の輪を広げながら、協働・共創につなげていく持続可能なまちづくりを目指します。

清流“古座川”を中心とした、まちづくりに取り組む住民の元気があふれ、関わるすべての人々の笑顔が絶えないまちを目指して、“あがら一緒に”歩んでいきましょう。

### 町の将来像

## 清流“古座川”と共生するまち

— 清流と笑顔を未来につなぐまちづくり —



## まちづくりの基本姿勢

みんなで対話し、つながり、  
わくわくするまちづくり



まちづくりの主体は、“古座川”に関わるみなさん一人ひとりです。地域のイベントや伝統行事などの共有体験の中で、多様な人々をつながり、それぞれの想いに触れ、このまちの未来について対話しながら、遊び心をもってまちづくりに取り組んでいきましょう。

## まちづくりの基本目標

将来像を実現するために、5つの「基本目標」を定め、29の「基本施策」を推進します。

### 基本目標 1 | 豊かな自然と暮らしがつながる安全・快適なまち

地震や津波、台風や豪雨などの甚大化する自然災害に備えるため、まちの強靱化を進めるとともに、地域の防災力の強化を図り、安全・安心なまちづくりを推進します。また、豊かな自然と生活基盤が調和した、人と自然が共生する快適なまちづくりに取り組みます。

### 基本目標 2 | 豊かな自然と産業がつながる賑わい・交流のまち

先人から受け継いだ農業、林業や水産業の振興を図るとともに、豊かな自然や景観をはじめとした地域資源を観光などの産業分野に活かし、新たな人の流れを生み出しながら、自然環境の保全と地域の経済活動が調和・循環する仕組みづくりに取り組みます。

### 基本目標 3 | 人と地域がつながり支え合う健康・福祉のまち

人口減少・少子高齢化が進む中で、すべての住民が世代を超えてつながり、支え合いながら、住み慣れた地域で末永く、健康で生きがいをもって暮らすことのできるまちづくりに取り組みます。

### 基本目標 4 | ふるさとの過去と未来をつなげる教育・文化のまち

地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支える仕組みを整え、誰もが楽しくともに学び合うことのできるまちづくりを推進します。また、魅力ある地域の伝統文化を守り育て、継承していくまちづくりに取り組みます。

### 基本目標 5 | 地域への想いがつながる協働・共創のまち

住民、団体、事業者や行政をはじめ、このまちに関わる多様な人々・機関が、連携・協力してまちづくりに取り組み、地域の魅力を発掘・発信していくことのできる仕組みづくりを推し進めます。

施策の体系は、以下のとおりです。

### 施策の体系



## 重点プロジェクト

### 重点プロジェクトとは

重点プロジェクトとは、基本構想に基づき、今後5年間で特に力を入れて推進する、行政分野を横断するような取り組みです。

前期基本計画の5年間では、コロナ禍で希薄化し、まだ完全に戻っていない人や地域の“つながり”に焦点を当て、その“つながり”をより強固にするための4つのプロジェクトに取り組みます。

### 重点プロジェクト

#### ① 地域防災力の強化

地域のつながりで災害に備えるために、自主防災組織の育成・活動支援に加え、防災士の育成など、地域で防災について学び、活動できる機会の提供に努め、地域防災を担う人づくりに取り組みます。また、役場、消防団、自主防災組織やその他の機関・団体との連携・協力にも力を入れ、地域全体で防災力の強化に取り組みます。



#### ② 観光・交流のプラットフォームづくり

古座川町への新たな人の流れをつくり、地域との交流を生み出すため、ぼたん荘を中心とした観光・交流拠点の機能強化に取り組みます。また、高校や大学といった教育機関との地域連携にもより力を入れ、学生・教職員との連携・交流の中で、地域課題の解決や魅力づくりに取り組むための基盤づくりを推進します。これらを通じて“古座川”の魅力に共感し、協働・共創する人々の輪を広げていきます。



#### ③ 食でつながる コミュニティづくり

食には人を和ませ、心を開く力があります。コロナ禍で減少した地域における共同の調理・食事の機会を再生させるべく、住民・団体と連携し、料理教室などの食育活動や、居場所やサロンでの食を囲む機会、郷土料理など生産から調理に至る食文化を継承する機会の提供に取り組みます。また、こどもたちに向け、地元食材による給食の提供や、焼き芋やもちつき大会など、地域での食を通じた共有体験の機会を創出します。



#### ④ 行政経営の推進

よい組織でなければ、よいサービスは提供できないと考え、自治体の組織・財政に関する改革に取り組みます。DXの視点や外部人材の知見を取り入れながら業務改革を進め、職員がしっかりと地域に向き合い、能力を最大限発揮できる組織づくりに取り組み、住民の満足と職員のやりがいの両立を目指します。





# 古座川町 第6次長期総合計画 **概要版**

令和7年4月 古座川町

〒649-4104 和歌山県東牟婁郡古座川町高池673番の2

電話：0735-72-0180 FAX：0735-72-1858 Eメール：info@town.kozagawa.lg.jp